



# 大杉東小だより

令和7年9月1日 No. 6

江戸川区立大杉東小学校 校長 高橋 真

## 「平和」を創る

44日間の夏休みが明け、本日2学期がスタートし、校舎に子供たちの笑顔が戻ってきました。今年の夏休みも記録的な猛暑が続き、予定していた夏季水泳指導のほとんどを中止せざるを得ませんでした。各ご家庭でも、ご予定や子供たちの活動を変更・制限されたことでしょうか。そのような中でも、子供たちはこの時期ならではの経験や体験をし、成長したことと思います。

下の表は、私が小学生だった50年前と今年の気温の比較です。 単位：℃

	平均気温			最高気温の平均			最低気温の平均		
	6月	7月	8月	6月	7月	8月	6月	7月	8月
1975年 (昭和50年)	21.6	25.6	27.3	25.0	29.4	31.5	15.4	17.9	24.0
2025年 (令和7年)	24.7	28.4	29.6	29.3	33.2	34.2	21.2	25.0	26.2

※気象庁HP「過去の気象データ」より ※観測地点：東京（東京都） ※8月は、29日9時時点の情報

平均気温は2℃～3℃以上高くなっており、50年前と比べて確実に暑さが増していることが分かります。特筆すべきは、6月と7月において、最高気温の平均が4℃前後、最低気温の平均が6～7℃前後高くなっていることです。7月と8月の平均は30℃を優に超え、最低気温も25℃を超えています。日中の暑さもさることながら、寝苦しい熱帯夜が続くようになったこととなります。熱中症（50年前は「日射病」「熱射病」と区別していました）の危険ははるかに高まり、対応が強く求められるようになりました。

さて、世界中で大変多くの犠牲を払った世界大戦が終了して80年。テレビでは「戦後80年」を特集した番組が連日放送されていました。戦争が引き起こした惨禍を映像で見聞きし、戦争の愚かさと平和の尊さを改めて考えさせられました。ある番組の司会者が、出演者が発した「戦後90年、100年」という言葉に、「『戦後』という言葉が続くと良いですが・・・」と話したことが強く印象に残りました。日本赤十字社が発表した「戦後80年に関する意識調査（2025年）」によると、「将来的に日本が戦争の当事者になる可能性があると思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答した割合が半数を超えており、平和への危機感が確実に高まっています。

全国連合小学校長会顧問の喜名朝博先生は、「平和教育は、学級の平和を創るところから」と語っています。「平和は誰かから与えられるものではない。あらゆる他者と共に創っていくものである（中略）身の回りの平和を創っていくことを体験的に学ぶことが、平和教育の始まりである」。学校は社会の縮図です。80年前に比べるとはるかに多様化した価値観の中で集団生活を送れば、当然様々な問題が起こります。大切なことは、問題が起きた時に「冷静に自分の言動に向き合うこと」「相手の気持ちを理解すること」です。「結果的に分かり合えなくても、互いに分かり合うために努力することに価値がある。これも主体的に平和を創るための力となるはずだ」。

2学期は、「自分を高める」をテーマに学校生活を充実させていきます。これまで同様、教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。